

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

佐賀県 有田町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	73.32	99.40	3,790	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
20,516	65.85	311.56
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
20,320	65.80	308.81

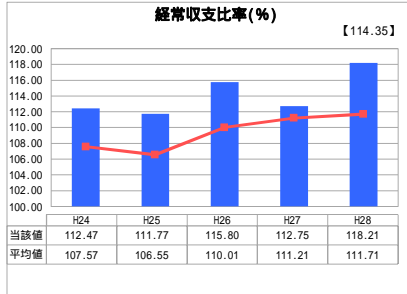
**グラフ凡例**

■ 当該団体値(当該値)

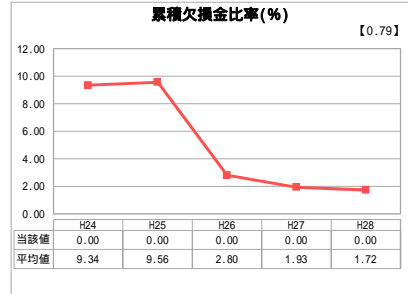
○ 類似団体平均値(平均値)

【】 平成28年度全国平均

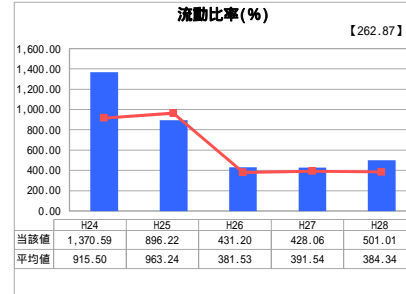
## 1. 経営の健全性・効率性



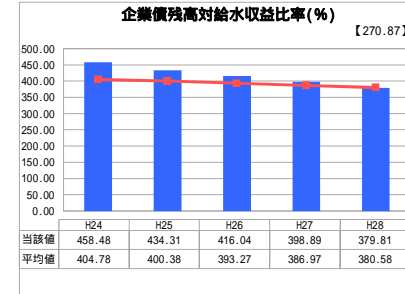
「経常損益」



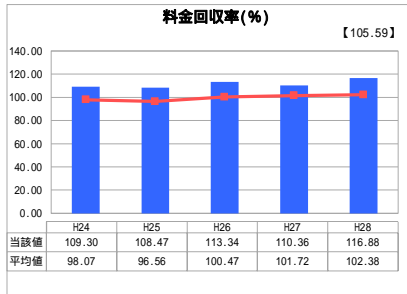
「累積欠損」



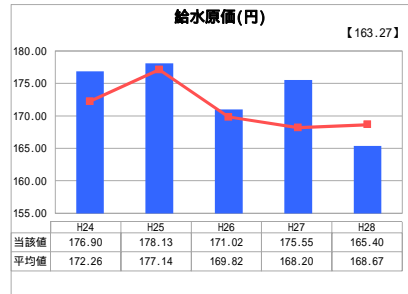
「支払能力」



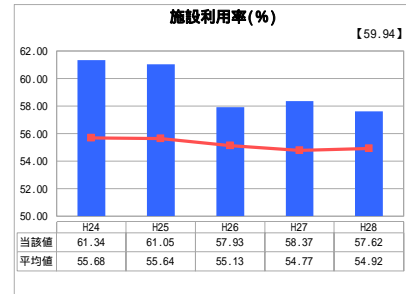
「債務残高」



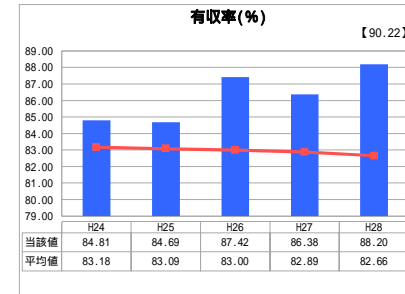
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

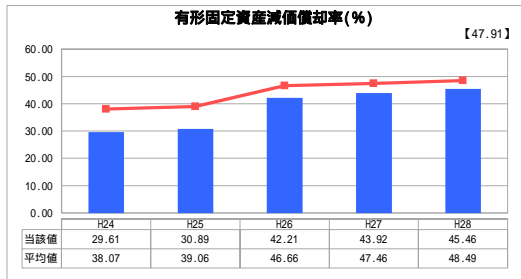


「施設の効率性」

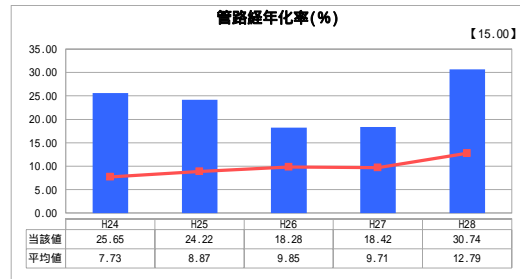


「供給した配水量の効率性」

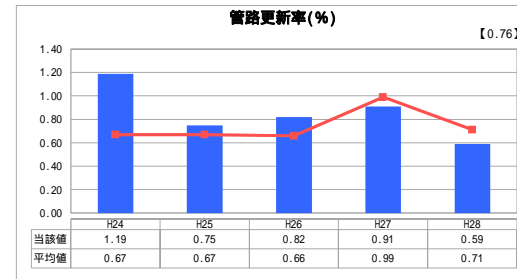
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は114パーセントで収支は黒字であるが、有形固定資産減価償却率・管路経年率が高く、さらに平成28年度には管路更新率が低くなったため管の更新投資が低い結果となっている。老朽化対策について早急に検討していく必要がある。

今後管路更新に係る経費の増加が見込まれるため給水収益以外の収入として平成27年度より企業債借入れを行っている。料金回収率を見ても他の類似団体と比較して高い水準を保っているが、人口減少が続いており、これ以上の収入増は望めないことから、施設の更新費用を賄うための資金が枯渇しないように対策を検討しておく必要がある。

有収率については平成24年度から本管の漏水が多発し、有収率が下がって修繕費が増加していたが、平成26年度より率が回復しているため、今後それを維持できるよう努めていく。

### 2. 老朽化の状況について

平成25年度に漏水が多発し管の修繕費が高んだことを受け平成26年度は資本的支出により管の更新額が増えた。法定耐用年数を経過しても管路を使用できないわけではないが、全体として管路の経過年数が増えている。アセットマネジメントを策定し浄水場を含めた計画的な施設更新を行っていく。

## 全体総括

現在は黒字で安定した経営が続いているが、人口減少に伴う収入の減に加え、施設および管路の老朽化と水道事業の今後の見通しは明るくない。平成26年度までは施設の更新時に大幅な企業債借入れは控えていたが平成27年度からは借入れを行い単年度の負担を軽減しながら現金を引き続き行っている。さらに有価証券などの新たな投資を引き続き行っていく。

料金単価については、現在の経常収支比率が良くても、自己資金による施設更新等のための建設改良費が大きければ現金は自減りするため、施設更新及び起債償還を含めた将来計画の策定が必要となる。